

◆試験問題

短答式問題

*ノートは自由に参照してください。

以下の文章中の【】に当てはまる語句として適切なものをそれぞれ選択してください。

ジョン・ロールズと多様性の中の正義

ジョン・ロールズは、人々の多様性からなる対立と経済的な格差が社会問題となっていた戦後アメリカ社会の中で、正義にかなった社会の枠組みとはいかなるものであるかを探求した哲学者である。ロールズが求める「正義」とは、【1】ことを意味している。この意味での正義にかなった社会においては、全ての人々が対等かつ自由に生きることができるようになると考えられる。

正義にかなった社会の枠組みを考える上で、ロールズは、人々の価値観はいまや多様であり、「良い生き方」を何か一つだけ特定することはできないという理解から出発する（彼はこれを「理にかなった多元性の事実」と呼ぶ）。この事実を受け入れるならば、正義にかなった社会のしくみは、様々な価値観を持つすべての人にとって受け入れられるものでなければならない。そこでロールズは、「無知のヴェールの下での合意」という考え方を提示する。ここで「無知のヴェール」とは、【2】機能をもつ、仮想的な思考ツールである。このヴェールの下での人々の合意は、誰一人として自分の立場に有利な決定を求めることができなくなるため、不偏的なものとなり、すべての人が納得できるものになるとロールズは考える。このように【3】とする自らの考え方を、ロールズは「公正としての正義」と名付ける。

では公正としての正義は、具体的にいかなる原理を導出するのだろうか。ロールズによれば、人々は「正義の2原理」に合意すると述べる。正義の二原理は、【4】とする第一原理と、社会的・経済的な不平等は原則として認められないとする第二原理からなる。第二原理にはさらに2つの例外条項があり、不平等のうち、【5】もので、かつ公正な仕方では生じたものについては、認められるとされている。この正義の2原理は、人々が自分の都合によって他人の基本的な人権を侵害したり、他人の境遇を悪化させてまで利益を獲得したりすることを禁止するものであり、ロールズが求めた正義（上記【1】）を実現する原理となっている。

このようなロールズの正義論は、第一に【6】とする点で自由主義的であり、また第二に【7】ことを要求する点で平等主義的である。以上のことから、ロールズの示した政治哲学上の立場は平等主義リベラリズムと呼ばれ、西洋諸国の福祉国家政策の哲学的基礎となった。

ロールズの主張に対する重要な批判の一つとして、ロバート・ノージックによる批判が挙げられる。ノージックは、「公正としての正義」の手続きにおいて、社会の存在が最初から前提されている点を批判し、社会を形成する段階での合意から考えるべきだとした。そしてその段階での合意は【8】ためになされるのであり、それゆえ正義にかなった社会とは【9】社会であると論じた。ノージックの示した政治哲学上の立場はリバタリアニズムと呼ばれ、特にアメリカで大きな支持を得た。リバタリアニズムは人々の生き方の多様性を認める点では平等主義リベラリズムに一致するが、財の強制的な再分配を認めない点で対立する。

以上のように現代では、正義にかなった社会のあり方をめぐって、哲学的な論争が生じている。もちろん「正義」とはなんでもありではなく、人々を対等に扱うことを求めるものでなければ正義に値しない（形式的正義の要請）。しかし、いったい【10】という点において、大きな論争の余地が残されているのである（実質的正義の問い）。私たちは、自分たちの社会がいかなる正義に基づいて組み立てられるべきなのかを、慎重に考え、議論していかなければならない。

【1】

1. 西洋の伝統に基づく正義の心をすべての人に身につけさせる
2. 一部の人々が別の人々の利益のために犠牲になることがない
3. ソ連のような独裁国家がこの世界に存在しなくなる

【2】

1. 自分が社会内のどの立場にいるのかわからないようにする
2. 自分が政治的問題に対して無知であるということに気づかせる
3. ソクラテスの「無知の知」を投票メカニズムに実装する

【3】

1. 公正さを身につけた優れた人物が決定する原理こそが、正義にかなったものとなる
2. あくまで現実の世界に公正な帰結を生み出す原理こそが、正義にかなったものとなる
3. 公正な初期状態において人々に合意される原理こそが、正義にかなったものとなる

【4】

1. 基本的な自由は人々の間での公正な話し合いを通じて正当化されなければならない
2. 基本的な自由は最も恵まれない人々に利益のある形で保証されるのでなければならない
3. 基本的な自由は全ての人に等しく認められなければならない

【5】

1. 最も恵まれない人々にも利益をもたらす
2. 過去になされた不正行為に対して正当な制裁を加える
3. 最大多数の最大幸福を実現する

【6】

1. 正義の原理を認めない国家に対しては戦争もやむなし
2. 正義の原理に反しない限りはどんな生き方をしても構わない
3. 正義の原理は市場メカニズムを阻害してはならない

【7】

1. 経済活動の自由を部分的に制約して格差を縮減する

2. 生産手段の国有化と統制経済を通じて完全な平等を達成する
3. 人々が平等に価値を見出すように思想信条に介入していく

【8】

1. お互いの所有権を保護する
2. 国民としてのアイデンティティを形成する
3. 強いものが弱いものを従える

【9】

1. ナショナリティに基づいて思想的な一体性をなす
2. 幸福量の最大化のために緻密に設計された
3. 各人の所有権の不可侵を第一とする

【10】

1. 誰が正義を実現するのに最も適しているのか
2. どの観点で対等に取り扱うべきなのか
3. いつ正義は完全な形で達成されるのか

(以上 10 問)

記述式問題

*ノートは自由に参照してください。手元にある新聞や雑誌を参照してもらってかまいません。また、インターネットでニュースを検索することも認めます。

授業で扱った哲学的概念（悪の凡庸さ、市民的公共性、善に対する正の優先権など）を用いて、いまの日本の社会問題について論じてください。すなわち、（1）今の日本において指摘されている社会問題を一つ挙げ、（2）授業で扱った哲学的概念を用いることでその問題をどのように理解することができるのかを示す、という形で、文章を作成してください。

字数は 300 字以内にまとめてください。部分点はなく、正否のみを判定します。

例) 先日、東京オリンピックにおいて、会場内での酒類の販売を認める方針が出されたことが、大きな社会問題となった。Twitter をはじめとする SNS で反対の声が広がり、ニュースメディアもこれを大きく取り上げたことで、翌日には政府は方針を一転させ、酒類の販売は認めない方針となった。これはハーバーマスの言う「市民的公共性」が発揮された一例であると考えられる。というのも、市民が政治的決定に対して自由な議論の上に異議申し立てを行い、それが政治に影響を及ぼしたものとして、この事例を把握することができるからである。

(以上 1 問)

◆解説

期末テストはオンラインで、manaba を利用して実施した。

はじめに短答式の問題で、授業内容の理解度を確認した。内容は J・ロールズの正義論をめぐる理解を問うものである。今期の授業ではロールズの他に H・アレント、J・ハーバーマスの思想も扱ったが、この二者についてはすでに小テストで同様に理解度を確認しているため、期末テストでは問わなかった。正答は順番に、2、1、3、3、1、2、1、1、3、2となる。

つづいて記述式の問題で、授業で得た知識の応用力を見た。この問題は、オンラインで試験を実施する以上、資料の確認やネット検索を禁止できないことを考えて、あえてそれらを利用して解答させるものとした。

試験時間は短答式・記述式の両方をまとめて 60 分とした。学生は余裕を持って解答できていたようである。

◆総評

短答式の問題に関しては非常によくできており、ほとんどの解答が満点であった。多くの学生が授業内容をよく理解していたことは望ましいことであるが、期末テストが理解度の高低に応じた評価を与えるためにあるものだとすれば、今回の試験は明らかな失敗である。これは私が学生の理解力を低く見積もっていたことに起因するものであり、反省している。今年度より赴任したため勝手がわからなかった、という言い訳を許していただきたい。後期からはもっと難易度を上げ、学生の理解をより深く問うものにしたいと考えている。

記述式の問題も比較的良好にできており、およそ 6 割の学生が、正答とみなすに値する解答を提出した。ただし気になることとして、H・アレントの「悪の凡庸さ」を用いて「いじめ」の例を論じるものが非常に多かった点が挙げられる。これは授業内で教員の側がまさにそのような例示を用いて説明を行っていたことに起因すると考えられる（要するに手頃な正解だったわけである）。解答として不適切なわけではないが、「自分の頭で考えていない」という解答が判で押したように繰り返される事態は、学生たちが教員の示した例を繰り返すばかりで自分の頭で思考できていないことをアイロニカルに指し示しているようでおそろしかった（そうではないことを祈る）。

また、悪の凡庸さというのは、自分もまた悪に加担しうるかもしれない、という反省を促すものであるべきで、他人の悪を糾弾するのに用いられるべきものではない、というのが私の解釈であり、その点でも懸念が残った。というのも悪の凡庸さに言及する解答の多くが、他人の行為に悪の凡庸さを見出し、深く考えることなく悪に加担していることを一方的に非難するものだったからである。私の説明が十分でなかったものと考えられる。今後の講義に活かしたい。

最後に、あくまで印象の域を出ないが、J・ハーバーマスの諸概念（市民的公共性、市民社会の再封建化、生活世界の植民地化 etc.）に言及する解答には優れたものが多かった。中には私の方がはっとさせられるような解答もあり、期末試験を通してこちらが勉強させてもらった部分があると感じている。

以上